

第4回久慈市沖浮体式洋上風力発電検討委員会 議事概要

日 時：令和4年7月1日（金）15：00～16：30

場 所：久慈市文化会館（アンバーホール）会議室及び ZOOMWEB 会議室

出席委員：北澤委員長，田中委員，伊藤委員，川戸道委員（代理：濱欠氏），二子委員，吉田委員，兼田委員（代理：山口氏）※，山王委員（代理：一田氏），横内委員※，佐藤委員（代理：出羽氏）※，高橋委員※，阿部委員※，和村委員（代理：本間氏），工藤委員，東山委員※，小笠原委員，桑田委員，嵯峨委員，谷崎委員，大崎委員 ※はZOOMWEB参加者

1. 主な議事

【議事1】 第3回検討委員会の振り返り

【議事2】 本事業のスケジュール及び今年度の実施内容

【議事3】 調査検討の内容と進捗状況

【議事4】 その他

2. 主な意見等

【議事1 関係】

特になし

【議事2 関係】

○漁業協調について

- ・海洋水産技術協議会から，洋上風力発電施設の漁業影響調査の提言が発表されている。本事業でも地産地消の仕組みでステークホルダーにどういったメリットがあるのかを示す必要があると考える。当該海域は，地元漁業者に限らず大臣許可漁業など外からきて利用している人も多くいる。外からの漁業者にも，いかに Win-Win の関係を築いていくかが非常に重要となる。事業性の観点で場所を選定してから確認するのでは同意は得られないので，丁寧な進め方を考える必要がある。大臣許可漁業者の方々にも具体的に意見をいただく必要があるのではないかとその通りであると考え。指針等を参考にして，情報交換をしながら進めたい。

- ・ゾーニング事業の際は，エネルギーの最大化の観点に加えて地元漁業者の皆様にヒアリングをした結果を基に検討したが，当時は大臣許可の漁業者へのヒアリングはできていなかった。改めて大臣許可漁業者の方々と対話を進めて欲しい。

○環境影響評価について

- ・「地域への配慮及びその手法のスタンダード化」とは何かわかりにくい。国のセントラルアセスに対応して本事業でも情報整理していくと思うが，国の検討がどういったところまで来ているのか。
- 国のセントラルアセスに関する新たな情報はないが，今後国から指針が示されるのではないかと期待している。ある程度国の動向を見て市の方針も決めたい。

・手法のスタンダード化への貢献とはどういったことを考えているか。

→手法のスタンダード化について、前例のない環境での調査であり、何をどのように評価すればよいかまだ定まっていない。久慈沖のような離岸距離がある場所での調査手法の知見が乏しいが、本事業の結果を検証することで、国の検討でも参考としてもらえるのではないかと考えている。

○地域振興・地産地消について

・地域振興について、新産業の創出について事例はあるか。地産地消について、浮体式洋上風力での電力を地域で活用するということがか。

→地産地消について、過去のアンケート等で、地域の電気料金が安くなるのでは、という意見があげられており、久慈市民向けの電力を安く供給してもらえば地消という面で地元へのメリットにつながるのでないかと考えた。市の立場でも、企業向けの売電の仕組みを考え、既存の地域エネルギー会社など既存の仕組みを利用できないか検討している。新産業について、今はまだ具体的にはないが、ヒアリング、情報共有によって見出したい。

・地域の電気料金については、地域貢献策ではあるが地産地消になるか、整理が必要である。地産地消もひとつではあるが、地域のみでの地消といったように消極的に考えず、全体での経済波及効果という意味で考えると良いのではないか。

・地元企業もかなり興味を持っている。先進地視察も含め勉強している。特に建設業の期待が強く、工事などの下請け、完成後のメンテナンス・オペレートなど、どれくらいの技術や費用が必要か勉強している。その面で一緒にできるとよい。

→今後ともいろいろ教えていただきたい。

【議事 3 関係】

○コミュニケーションについて

・大臣許可漁業者との意見交換はどの団体と行ったのか。

→大日本水産会より関係団体についてご助言いただいた5団体と対話をしている。全国底引き網漁業連合会関連団体として、岩手県底曳網漁業協会とも協議している。

○基礎調査について

・魚類に対して、音に対する影響調査のほかに影の影響について調べているか。

→影の影響（シャドーフリッカー）は情報収集に至っていない。加えて対応したい。

・陸上の風況観測ではバットディテクターを併用することが多いが、本調査でも検討できないか。洋上の風況観測ブイ等の付着生物について調査ができれば、新たな生態基盤や漁礁効果など、漁業影響やアセスの参考になると思う。可能であれば検討して欲しい。

→コウモリの影響について、沖合での状況を把握するよう、調査手法を検討する。洋上の付着生物について、共同調査での協力依頼も含めて検討する。

○その他

・資料4の地産地消“解消”は誤記である。事業性・二酸化炭素削減効果の検証として色々な項目を挙げているが、他の項目との整理がついていないので見直す必要がある。例えば11ページの地産地消のための手法検討に記載のある事業性や電力消費のあり方については、前の項目で説明すればよいのではないか。

→事業性・二酸化炭素削減効果については、調査事項と、それを基にどういった検討を行うかに分けて記載したが、よりわかりやすいように整理したい。

・温対法改正による再エネ目標と促進区域の指定について、市の検討状況について教えて欲しい。市としても温対法の制度を活用しながら位置づけを明確にするとよいのではないか。

→促進区域の指定について、陸域は風力・太陽光・中小水力についてゾーニングを開始した。今年度に国の基準が出されたことで県でも基準を策定中であり、市でも連携して取り組む。洋上風力については、今後の検討になる。

・久慈市の将来像のビジョンに関わるもので、再エネを軸として地域の産業化に絡められるのではないかと考える。インセンティブを用意して企業立地を巻き込んで、温暖化対策に貢献するビジョンを検討して欲しい。

【その他】

特になし

3. 情報提供

・7月15日から音によるスルメイカの行動について、函館で実験を行う予定である。浅虫水族館では、9月以降にその他の魚類の実験を行うよう計画している。資料4の3ページ、マダイの実験について補足すると、通常時は図の左のグレーの範囲にマダイがいたが、図の左の方より音を発すると右側の方に移動し、音から逃げるといった行動をとった、ということを示す。音は、風車が回っているときの音を録音して使用した。マダイは音に敏感な魚であるが、1回目は逃げて2回目以降は慣れが見られた。